

# 令和 7 年度(2025 年度)

## 広島県における日本語教室の現状アンケート

### —現状報告と提言—

県立広島大学  
地域創生学部・大学教育実践センター・国際交流センター  
中石ゆうこ(日本語教育学)

#### 第 1 節 はじめに

本報告では、令和 7 年度(2025 年度)2 月から 3 月にかけて広島県の日本語指導者・支援者(日本語教室で日本語を教えている指導者、支援者)を対象に行った、日本語教室の実態を把握するアンケートの結果の分析結果を報告する。

対象:広島県の日本語教室で日本語を教えている指導者、支援者

回答数:105 件

回答時期:2026 年 2 月 15 日から 3 月 22 日

回答方法:オンラインフォーム(Google Forms)への入力によって回答

・回答者は匿名で回答した。

・回答募集は「ひろしま日本語教育研究会」の Facebook とメーリングリストでの連絡、ひろしま国際センター「広島県内の国際交流団体一覧」のうち日本語教室を事業として記載している団体へのメール連絡によって行った。また、報告者が個別に広島県内の日本語指導者、支援者、コーディネーター、主催団体等へ連絡し、情報を伝達してもらった。

この報告では、全体の集計結果を示すとともに日本語教室の種別(以下、教室種別)を次の3つの属性(表 1)に分けて示す。教室種別は、その教室で行われる日本語指導が、文化審議会国語分科会(2019)の示す日本語教育の類型「生活」「児童生徒等」「留学」「就労」のうちのどれに当てはまるかによって、筆者が分類したものである。ただし、このうち日本語教育の類型「児童生徒等」については、本報告書の類型においては「教科」と記載した。これは、「児童生徒等」を対象とする日本語教室を本アンケートでは、学校の正課内における日本語指導と規定したことによる。実態としては、「児童生徒等」は「生活」「留学」の領域にもまたがる存在である。また、同じように「留学」「就労」という類型に含まれる留学生、就労者等も、「生活」者としての側面を併せ持っている。

本アンケート調査の回答数は全 105 件で、教室種別ごとに分類すると、甲「地域教室」が 61 件、乙「学校(小中高校)」が 14 件、丙「日本語学校・専門学校・企業」は 30 件となった。各教室種別における教室の下位分類(【問 5-2:教室の種別】)は、甲「地域教室」はすべて「地域の日本語教室」(放課後教室・週末教室・日本語サロン等)、乙「学校(小中高校)」はすべて「学校(小中高等)の課内日本語教室・国際教室」、丙「日本語学校・専門学校・企業」は「日本語学校」(83%)、「特定分野の日本語研修」(13%)、大学(3%)であった。

表 1 日本語教室の種別と回答数

| 教室種別                                                | 回答数<br>(件) | 日本語教育の類型 | 学習者            |
|-----------------------------------------------------|------------|----------|----------------|
| 甲「地域教室」<br>主に生活者のために開かれ<br>る地域の日本語教室                | 61         | 生活       | 生活者としての<br>外国人 |
| 乙「学校(小中高校)」<br>小学校・中学校・高等学校の<br>正課における日本語教室         | 14         | 教科       | 児童生徒           |
| 丙「日本語学校・専門学校・企<br>業」<br>日本語学校、専門学校、企業<br>等の日本語研修、大学 | 30         | 留学・就労    | 留学生・就労者        |
| 計                                                   | 105        |          |                |

(注) 甲: 地域の教室

「地域の日本語教室」(放課後教室・週末教室・日本語サロン等)(100%)

乙: 学校(小中高)

「学校(小学校・中学校・高等学校)の課内日本語教室・国際教室」(100%)

丙: 日本語学校、企業、大学

「日本語学校」(83%)、「特定分野の日本語研修」(13%)、「大学」(3%)

ここからは、分析結果を報告する。全体の傾向、および教室種別ごとの傾向、すなわち甲「地域教室」乙「学校(小中高校)」丙「日本語学校・専門学校・企業」のそれぞれの傾向を示す。

なお、集計、分析に当たって、アンケートにおいて「その他」に記載された自由記述による回答は、その内容が各選択肢に当てはまると判断できる場合は、そちらに集計するように報告者が数え直したことがある。また、自由記述の文章については、読みやすさや匿名性を考慮して、一部表現の修正などの処理を行ったことがある。それらの文章は、例えば、文章が途中で終わっている、問いと異なる回答をしている、記述内容から団体や個人の推測ができるなどの回答である。

## 第2節 回答者の属性

ここからは、広島県の日本語教室に関わっている指導者、支援者の属性について、全体の傾向および教室種別ごとの傾向を示す。

### 2-1. 全体の属性

表2 【問1：年齢】

| 選択肢   | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|-------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 20代   | 5        | 4.8%     | 4        | 6.6%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%  |
| 30代   | 8        | 7.6%     | 2        | 3.3%  | 3        | 21.4% | 3        | 10.0% |
| 40代   | 15       | 14.3%    | 6        | 9.8%  | 4        | 28.6% | 5        | 16.7% |
| 50代   | 28       | 26.7%    | 12       | 19.7% | 2        | 14.3% | 14       | 46.7% |
| 60代   | 25       | 23.8%    | 15       | 24.6% | 4        | 28.6% | 6        | 20.0% |
| 70代   | 21       | 20.0%    | 19       | 31.1% | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |
| 80代   | 2        | 1.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 90代以上 | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |

全体の年齢分布は50代(26.7%)・60代(23.8%)・70代(20.0%)の合計で約7割を占め、年齢の高い層が中心に活動していることが分かる。20～40代は合計26.7%にとどまる。日本語支援の担い手が高齢化しており、世代交代が進んでいない可能性が高い。「日本語教室の課題」【問25】における「運営を引き継ぐ人がいない」という回答は、全体で14件(13.3%)であり、教室種別ごとの回答を見ると、甲「地域教室」で11件(18.0%)、乙「学校(小中高校)」で2件(14.3%)、丙「日本語学校・専門学校・企業」で1件(3.3%)に見られた。この課題と日本語指導者・日本語支援者の年齢分布は整合している。

表3 【問2：関わり始めた年代】

| 選択肢    | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|--------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 1980年代 | 2        | 1.9%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%  |
| 1990年代 | 17       | 16.2%    | 10       | 16.4% | 0        | 0.0%  | 7        | 23.3% |
| 2000年代 | 11       | 10.5%    | 5        | 8.2%  | 0        | 0.0%  | 6        | 20.0% |
| 2010年代 | 32       | 30.5%    | 22       | 36.1% | 5        | 35.7% | 5        | 16.7% |
| 2020年代 | 43       | 41.0%    | 23       | 37.7% | 9        | 64.3% | 11       | 36.7% |

日本語教室に関わり始めた年代は、全体の回答では2020年代から関わっている指導者、支援者が最多で41%、次いで2010年代で30.5%であった。一方で1980年代～2000年代から関わり始めたという者も約29%おり、新旧混在という状況になっている。

### 【問 3・4：国籍・出身地】

回答者のうち 102 名(約 95%)が日本国籍であった。外国籍(国籍無回答 1 名を含む)の支援者は全体で 3 名(2.9%)にとどまっていた。このことから、現在の日本語教室の指導者・支援者側のほとんどが日本人で構成されていることが予想される。外国人の社会参加の促進、支援者と学習者の文化的距離の解消という点では、今後、外国籍、外国出身の指導者、支援者の日本語教室運営への参加促進が課題となりうる。

表 4 【問 5-1：役割・関わり方】(複数選択)

| 選択肢                       | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|---------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| A) 教室代表                   | 18       | 17.1%    | 16       | 26.2% | 2        | 14.3% | 0        | 0.0%  |
| B) 日本語指導者・教師(謝金・<br>給与あり) | 45       | 42.9%    | 8        | 13.1% | 10       | 71.4% | 27       | 90.0% |
| C) ボランティア(交通費・謝金<br>なし)   | 26       | 24.8%    | 23       | 37.7% | 0        | 0.0%  | 3        | 10.0% |
| D) ボランティア(交通費のみ)          | 8        | 7.6%     | 8        | 13.1% | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| E) ボランティア(謝金のみ)           | 12       | 11.4%    | 9        | 14.8% | 1        | 7.1%  | 2        | 6.7%  |
| F) ボランティア(交通費・謝金<br>あり)   | 5        | 4.8%     | 4        | 6.6%  | 1        | 7.1%  | 0        | 0.0%  |
| G) コーディネーター・アドバイ<br>ザー    | 13       | 12.4%    | 9        | 14.8% | 2        | 14.3% | 2        | 6.7%  |
| H) 主催団体・企業職員              | 10       | 9.5%     | 7        | 11.5% | 1        | 7.1%  | 2        | 6.7%  |
| その他                       | 9        | 8.6%     | 3        | 4.9%  | 4        | 28.6% | 2        | 6.7%  |

「有給の日本語指導者・教師」が 45 件(42.9%)と最多だが、これは乙「学校(小中高校)」10 件(71.4%)、丙「日本語学校・専門学校・企業」27 件(90%)が大きく引き上げていることによる。甲「地域教室」に有給で関わっている日本語指導者、教師は 11 件(18.0%)に過ぎない。

全体としては「無報酬ボランティア(交通費・謝金なし)」が 26 件(24.8%)、それを含めて、何らかの形でボランティアとして関わる人の合計は 51 件(約 48%)に上り、全体的には、日本語教室の活動の相当の部分がボランティアによって支えられていることが分かる。

表 5 【問 6：活動エリア】（複数選択）

| 選択肢      | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲<br>件数 | 甲 %   | 乙<br>件数 | 乙 %   | 丙<br>件数 | 丙 %   |
|----------|----------|----------|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 広島市      | 43       | 41.0%    | 16      | 26.2% | 10      | 71.4% | 17      | 56.7% |
| 福山市      | 15       | 14.3%    | 9       | 14.8% | 2       | 14.3% | 4       | 13.3% |
| 東広島市     | 13       | 12.4%    | 5       | 8.2%  | 1       | 7.1%  | 7       | 23.3% |
| 呉市       | 10       | 9.5%     | 7       | 11.5% | 1       | 7.1%  | 2       | 6.7%  |
| 江田島市     | 5        | 4.8%     | 4       | 6.6%  | 0       | 0.0%  | 1       | 3.3%  |
| 安芸高田市    | 5        | 4.8%     | 5       | 8.2%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 尾道市      | 4        | 3.8%     | 4       | 6.6%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 三次市      | 4        | 3.8%     | 4       | 6.6%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 府中市      | 4        | 3.8%     | 4       | 6.6%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 三原市      | 4        | 3.8%     | 3       | 4.9%  | 0       | 0.0%  | 1       | 3.3%  |
| オンライン    | 3        | 2.9%     | 3       | 4.9%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 庄原市      | 3        | 2.9%     | 3       | 4.9%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 廿日市市     | 3        | 2.9%     | 2       | 3.3%  | 0       | 0.0%  | 1       | 3.3%  |
| 広島県外     | 2        | 1.9%     | 1       | 1.6%  | 0       | 0.0%  | 1       | 3.3%  |
| （不明・その他） | 1        | 1.0%     | 1       | 1.6%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |
| 大竹市      | 1        | 1.0%     | 1       | 1.6%  | 0       | 0.0%  | 0       | 0.0%  |

表 5 は、広島県内の日本語指導者・支援者の活動エリアを件数降順で示したものである。広島県の全 23 市町のうち回答が得られたのは 13 市町であった。回答数は広島市が最多（41%）、続いて福山市（14%）、東広島市（12%）であった。日本語教室が開かれているエリアが広島県の人口の多い都市部に集中している傾向が表れている。

一方、1 件も回答がなかったのは、安芸太田町、北広島町、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町、世羅町、神石高原町であった。広島県の全 23 市町のうち、市からは少なくとも 1 件の回答があったが、町からは回答がないという結果になった。町には情報が届きにくい、あるいは情報が届いていても対応できる体制になっていないという可能性が予想されるが、理由は分からない。

ここからは、表 2 から表 5 を見ながら、教室種別ごとに傾向をまとめる。

## 2-2. 甲「地域教室」（地域の日本語教室、N=61）

### 1. 高齢化が進んでいる

回答者の年齢【問 1】（表 2）によると、甲「地域教室」は最も高齢化が進んだグループで、70 代が 31.1%、80 代・90 代合わせて 4.9%と、他グループに比べて突出して、日本語指導者、支援者の年齢層が高い。60 代以上で約 61%を占める。20 代から 30 代はわずか 9.9%であった。

地域日本語教室は、1980 年代のグローバル化の進展とともに増えてきた外国人住民を助けるために、市民が主体的に日本語面、生活面の支援を開始して、ここまで広がっていった経緯がある。そ

の時の支援者による運営が継続し、高齢化が進んでいる様子が垣間見える。地域の日本語教室は、60代以上指導者、支援者が多いことから、地域の日本語教室は、日本人市民の退職後や子育て後の時期、いわゆる「第二の人生(セカンドライフ)」の段階での社会貢献、社会参加を行う場としての機能を持っていることが分かる。

## 2. 関わり始めた年代は二極化している

関わり始めた年代への回答から日本語指導者・支援者の活動歴【問2】(表3)を見ると、長期継続と新規参入の両方が見られる。関わり始めた年代は2010年代(36.1%)、2020年代(37.7%)が最も多いが、1980年代から2000年代からの長期間関わっている者も相当数いる(26.2%)。同じ地域の教室において、長年支援を行ってきたベテランと近年の新規参入者が混在して活動していることが予想される。このことから、日本語指導、学習者への関わり方のスキルや教室運営に関する意識にずれが生じやすい状況があることが予想される。

## 3. ボランティア中心の活動である

役割・関わり方【問5-1】(表4)を見ると、甲「地域教室」はボランティア中心(72.2%)であり、中でも無報酬ボランティア(交通費・謝金なし)が37.7%と最多であった。有給の指導者は13.1%に過ぎない。回答者の役割では教室代表が26.2%と他グループより高く、運営の中心を担う人(52.5%)や主催者・運営代表(36.1%)という役割を持つ人の割合も、他のグループとの比較によれば最大であった【問7・問19】。このことから、地域日本語教室では、主催者が教室代表者を兼ね、同時に日々の教室の運営にも携わるという形態で行われている教室が多いことが予想される。

以上の結果から、地域日本語教室の活動の大部分は、ボランティアの善意によって支えられていることが見て取れる。「日本語教室の課題」【問25】として「活動資金不足」(19.7%)「後継者不在」(18.0%)が挙がっていたのは、この構造から必然的に生じている課題と言えよう。

## 4. 活動エリアは県内全域に見られる

活動エリア【問6】(表5)は、広島市(26.2%)を中心として、13市町に広がっていた。中では、福山市(14.8%)、呉市(11.5%)、東広島市(8.2%)、安芸高田市(8.2%)からの回答が多かった。広島県の地域の日本語教室が県内全域に渡って展開されようとしている状況が分かる。広島県全体を通して、「生活者としての外国人」を対象とした日本語教室が開設されていない地域(いわゆる「空白地域」)を解消しようとしている動きが見て取れる。

2025年3月の現況では、回答が1件もなかった10市町には、日本語教室が存在しない可能性、あるいは日本語教室が存在しているが、活動している指導者、支援者に情報が届かなかったとい

う可能性が考えられる。また、回答数が少なかった府中市、大竹市、三原市などでは教室の担い手が限られている可能性がある。

地域の日本語教室が存在しない地域に在住する外国人に向けては、オンライン指導の案内がなされることが多い。本調査でも、活動地域を「オンライン」とした回答が3件あった。

## 2-2. 乙「学校（小中高校）」（学校の課内日本語教室・国際教室、N=14）

### 1. 年齢層は幅広い

年齢【問1】（表2）は幅が広いが、とくに30代（21.4%）・40代（28.6%）・60代（28.6%）が多かった。今後、60代の退職・離職が進んだ段階において、指導者・支援者不足にならない体制づくりが求められる。

### 2. 活動歴が10年未満の指導者・支援者が多い

活動歴【問2】（表3）を見ると、64.3%が2020年代から関わり始めている。1990年代から2000年代の参加者は見られなかった。日本語指導に関わる教諭・教員が継続してこの業務に関わる人事のシステムになっていないことが見て取れる。一方、第3節「指導者・支援者の意識」で報告する、今後の関わりの意向【問23】については、乙「学校（小中高校）」の回答者の全員（14件、100%）が今後も日本語教室に「関わりたい」と回答している。

この二つのデータから、指導者・支援者の意向が反映されてにくい体制になっていることが分かる。日本語指導という専門的キャリアの経験を継続して生かせる体制構築が望まれる。第3節で扱う結果の先取りになるが、このグループの抱える課題【問25】としては、「孤立感」（4件、28.6%）、「情報交換の機会の少なさ」（7件、50%）、「相談できる公的機関がない」（6件、42.9%）という回答が突出している。経験年数と抱える課題から、学校現場では、日本語指導が担当者によってのみ担われ、孤立して行われているという状況があることが懸念される。

短期間での異動が前提となる現状では、日本語指導の経験年数が少ない指導者・支援者が継続して生まれる状況が想定されることから、指導・支援のノウハウの蓄積や相談体制構築を十分に行っておく必要があることが分かる。また、日本語指導などについて相談したいときに相談できる外部機関との連携に向けた働きかけや仕組み作りが必要である。

### 3. 有給が多い

役割【問5-1】（表4）によると、有給が10件（71.4%）と圧倒的多数であった。「その他」の4件（28.6%）は支援員等としての従事であると推察される。ボランティアは2件（14.2%）であった。これらは、学校という制度的な枠組みの中での雇用体系が反映されている結果であろう。

#### **4. 広島市に集中**

活動エリア【問 6】(表 5)は 71.4%が広島市で、都市部からの回答に集中していた。これは、外国人児童生徒が多い地域(集住地域)ほど、学校内の日本語教室が整備されやすく、人員が確保されているということが影響していると考えられる。または、これら都市部では、人的ネットワーク(口コミ)などによって、今回のアンケート依頼のような、専門機関(大学等)からの案内が届きやすいという実態があるのかもしれない。

#### **2-3. 丙「日本語学校・専門学校・企業」(日本語学校・特定分野研修など、N=30)**

##### **1. 40 代から 60 代が大半を占める。**

年齢【問 1】(表 2)の結果によれば、50 代が 46.7%と圧倒的である。40 代(16.7%)、60 代(20.0%)がそれに次ぐ。3 グループ中、最も年齢が一定の世代に集中していた。20 代(3.3%)、30 代(10.0%)が比較的少ないことから、若い世代の参入がスムーズに進んでいない現状が予想できる。

##### **2. 長期経験者が多い。**

活動歴【問 2】(表 3)を見ると、1990 年代(23.3%)・2000 年代(20.0%)からの参入者が合計 43.6%と 20 年から 30 年の長いキャリアを持つ層が厚い。2020 年代の新規参入(36.7%)も多く、長期の経験を持つ指導者が日本語教室を支え、2020 年代からの新規参入者も加わっている構造となっているようである。

##### **3. 運営・意思決定に関わりにくい立場の指導者が多い。**

役割【問 5-1】(表 4)を見ると、有給が 90%と大半であるが、ボランティア(交通費・謝金なし)が 10%、ボランティア(謝金のみ)が 10%あった。主催者・運営代表は 10.0%【問 7】、「運営の中心を担う」も 30.0%【問 19】と低かった。雇用されて指導する立場であるため、多くの指導者が運営・意思決定には関与しにくい立場にいることが読み取れる。これは、第 4 節の結果の先取りになるが、教材選定の方法【問 40】に寄せられた回答「非常勤講師には教材選びの権利はないので、学校にある教科書から選ぶ以外ない。」(丙「日本語学校・専門学校・企業」1 件、3.3%)という記述にも表れていた。

## 2-4. まとめ

全体を通じて浮かび上がる最大の構造的問題は、担い手の高齢化と新規参入者の経験不足の並存である。とくに甲「地域教室」では熟練した指導者、支援者が高齢化しており、近い将来、活動を次の世代に引き継げず、消滅する団体が出てくる可能性が現実の問題として迫っている。乙「学校（小中高校）」は新規参入が多い一方で孤立した環境に置かれており、専門的サポートが最も急がれる。丙「日本語学校・専門学校・企業」グループは専門性・安定性が高いが、運営への関与が低く、現場の声が制度設計に届きにくい構造的課題がある。

## 第3節 指導者・支援者の意識

ここからは、広島県の日本語教室に関わっている指導者、支援者の意識として、今後も教室に関わりたいかという参加意向、現在抱えている課題に関する回答の分析結果を示す。結果は、全体の傾向、および甲「地域教室」乙「学校（小中高校）」丙「日本語学校・専門学校・企業」の傾向に分けてまとめる。

### 3-1. 全体の傾向

#### 1. 今後も関わりたい指導者・支援者が大半

次は、日本語指導者・支援者に今後も日本語教室に関わりたいかという問い【問23】の結果である(表6)。

表6 今後の参加の意向【問23】

| 選択肢     | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 乙 件<br>数 | 丙 件<br>数 |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 関わりたい   | 94       | 89.5%    | 54       | 14       | 26       |
| 分からない   | 9        | 8.6%     | 6        | 0        | 3        |
| 関わりたくない | 2        | 1.9%     | 1        | 0        | 1        |

その結果、実に大多数 89.5%が今後も日本語教室に「関わりたい」と回答しており、指導者、支援者の教室への参加継続への意欲は非常に高い。その一方で、9件(8.6%)が「分からない」、2件(1.9%)が「関わりたくない」と答えている。なお、「関わりたくない」という回答は、甲「地域教室」、丙「日本語学校・専門学校・企業」にそれぞれ1件ずつという結果であった。

#### 2. 指導者・支援者が不足

日本語教室の課題【問25】(表7)を見ると、回答者の抱える最大の課題は「支援者・指導者が足りない」(50件、47.6%)で、ほぼ半数が人材不足を挙げている。次いで「情報交換の機会が少ない」(23件、21.9%)、「学習者数の減少」(19件、18.1%)と「指導時間の不足」(19件、18.1%)が続く。日本語教室は慢性的な人手不足があると考えられる。指導時間の不足という課題もこれと関わると思われる。また、指導者、支援者間で情報交換する機会が限られているという報告から、他の教室の持つノウハウや情報に十分に頼れないまま、独自の支援を続けている様子も分かる。一方、

本調査からは、教室の学習者の数が減っているという逆の課題も同時に報告された。グループ別の結果報告の先取りになるが、この回答は甲に集中して見られた（19件中16件、84.2%）。ここから、このグループでは、思い描いたように教室を運営できず、結果、学習者が離れていくという悩みを抱える指導者、支援者が潜在的に存在する可能性がある。

**表 7 【問 25：日本語教室の課題】（複数回答）**

25. あなたの日本語教室では次のことが課題になっていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

| 選択肢                                | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|------------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 支援者・指導者(ボランティア・日本語教師)が足りない。        | 50       | 47.6%    | 34       | 55.7% | 7        | 50.0% | 9        | 30.0% |
| 支援者・指導者同士や他の団体との間で情報交換をする機会が少ない。   | 23       | 21.9%    | 11       | 18.0% | 7        | 50.0% | 5        | 16.7% |
| 学習者数が減ってきている。                      | 19       | 18.1%    | 16       | 26.2% | 2        | 14.3% | 1        | 3.3%  |
| 日本語指導にかけられる時間が不足している。              | 19       | 18.1%    | 9        | 14.8% | 5        | 35.7% | 5        | 16.7% |
| 学習者とゆっくり話す時間(雑談など)が不足している。         | 17       | 16.2%    | 7        | 11.5% | 2        | 14.3% | 8        | 26.7% |
| 活動資金が不足している。                       | 15       | 14.3%    | 12       | 19.7% | 3        | 21.4% | 0        | 0.0%  |
| 運営を引き継ぐ人がいない。                      | 14       | 13.3%    | 11       | 18.0% | 2        | 14.3% | 1        | 3.3%  |
| 日本語の教材・教具が不足している。                  | 12       | 11.4%    | 5        | 8.2%  | 5        | 35.7% | 2        | 6.7%  |
| 学習者に将来の進路(進学・就職など)を明確に示す手段がない。     | 12       | 11.4%    | 7        | 11.5% | 3        | 21.4% | 2        | 6.7%  |
| 日本語指導のやり方について、相談できる公的機関や団体がない。     | 11       | 10.5%    | 4        | 6.6%  | 6        | 42.9% | 1        | 3.3%  |
| 日本語教室が孤立しているように感じる。                | 11       | 10.5%    | 5        | 8.2%  | 4        | 28.6% | 2        | 6.7%  |
| 活動場所が不足している。                       | 9        | 8.6%     | 7        | 11.5% | 2        | 14.3% | 0        | 0.0%  |
| 活動場所の設備が不適切・不十分である。                | 9        | 8.6%     | 3        | 4.9%  | 4        | 28.6% | 2        | 6.7%  |
| 日本語指導 以外 の困りごとについて相談できる公的機関や団体がない。 | 5        | 4.8%     | 2        | 3.3%  | 2        | 14.3% | 1        | 3.3%  |
| [その他(自由記述)]研修がない。(モデルレッスン、教え方等)    | 2        | 1.90%    | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |

|                                                                     |    |       |   |       |   |      |   |       |
|---------------------------------------------------------------------|----|-------|---|-------|---|------|---|-------|
| 〔その他（自由記述）〕指導者と生徒の時間帯が合わない。                                         | 2  | 1.90% | 2 | 3.3%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕在留資格の概要などを知る機会がほしい。                                      | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕急激に参加者が増えることがある。                                         | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕各学校での対応が大きく異なっている。指導協力者の教え方に大きな差がある。担任や学校が受け入れの際に困り感がある。 | 1  | 1.0%  | 0 | 0.0%  | 1 | 7.1% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕やり方がこれで良いのか分からない。試験対策で説明が難しく力不足を感じる。                     | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕日本語以外の困り事を公的機関に伝えられる仲介役を果たす支援者がいない。                      | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕登録日本語教師や認定日本語教育機関への対応・準備                                 | 1  | 1.0%  | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% | 1 | 3.3%  |
| 〔その他（自由記述）〕学習者のレベルや国籍、人数がその日にならないと分からない。                            | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  |
| 特に困っていることはない。                                                       | 12 | 11.4% | 8 | 13.1% | 0 | 0.0% | 4 | 13.3% |
| どんな課題があるか分からない。                                                     | 7  | 6.7%  | 1 | 1.6%  | 0 | 0.0% | 6 | 20.0% |

### 3-2. 甲「地域教室」(N=61) の傾向

#### 支援者不足、学習者減少、活動資金、後継者不足で持続できるか不安が多い

甲「地域教室」の課題としては「支援者不足」が55.7%と最も高く、全体平均を上回る。加えて「学習者数が減ってきている」(26.2%)が他グループより際立っており【問25】(表7)、活動の縮小傾向への懸念が強い。「活動資金が不足している」(19.7%)や「運営を引き継ぐ人がいない」(18.0%)も比較的高く、組織運営上の持続可能性に課題を抱えている教室が多いと読める。

### 3-3. 乙「学校（小中高校）」（N=14）の傾向

#### 孤立と情報不足

乙「学校（小中高校）」は最小グループ（14名）だが、特徴が鮮明で、かつ最も困難な状況に置かれているグループと言える。最大の特徴は孤立感と情報不足である。「情報交換の機会が少ない」（50.0%）、「日本語指導の相談先がない」（42.9%）、「教室が孤立していると感じる」（28.6%）、「活動場所の設備が不十分」（28.6%）がいずれも他グループを大きく上回っている【問 25】（表 7）。

### 3-4. 丙「日本語学校・専門学校・企業」（N=30）の傾向

#### 学習者とゆっくり話す時間がない、運営が見えてこない

丙「日本語学校・専門学校・企業」は独自の強みと課題を併せ持つグループである。課題の特徴は、人的・時間的な余裕の不足である。「学習者とゆっくり話す時間が不足」（26.7%）が甲「地域教室」・乙「学校（小中高校）」より高かった【問 25】（表 7）。

その一方で、「どんな課題があるか分からない」という回答も目立つ（20.0%）。専門的な通訳体制があるが、教師間、あるいは経営者と教師の間での日常的なコミュニケーションの不足が予想され、教育機関の持つ課題の可視化には困難を感じている可能性がある。

## 第 4 節 教室運営の実態

ここからは、広島県の日本語教室の運営の様子について、言語対応の状況と教材へのアクセスという観点から分析する。ここでも全体の傾向、および甲「地域教室」乙「学校（小中高校）」丙「日本語学校・専門学校・企業」の傾向に分けてまとめる。

### 4-1. 全体の傾向

#### 1. 日本語と英語で対応、通訳翻訳は機器が頼り

【問 27】【問 28】【問 30】【問 32】（表 8 から表 11）より、言語対応状況をまとめると、授業で使用する言語は、やさしい日本語（99%）が標準的に使用されているという結果になった。また、英語（62%）も使用されている。通訳方法としては、アプリ・機器（84 件、80%）と学習者同士での通訳（66 件、63%）に頼ることが多く、教室側に専門通訳者を置く体制は整っていない。機械翻訳だけに頼らざるを得ない言語としてはベトナム語（28%）、ネパール語（21%）、ミャンマー語（19%）、インドネシア語（17.1%）、ベンガル語（15.2%）が上位に挙がり、多言語対応の限界が示されている。

表 8 【問 27：使用言語】（複数回答）

| 選択肢                        | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %        | 丙 件<br>数 | 丙 %        |
|----------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|------------|----------|------------|
| 日本語<br>(やさしい日本語を含む)        | 104      | 99.0%    | 60       | 98.4% | 14       | 100.0<br>% | 30       | 100.0<br>% |
| 英語                         | 65       | 61.9%    | 34       | 55.7% | 13       | 92.9%      | 18       | 60.0%      |
| 中国語                        | 19       | 18.1%    | 8        | 13.1% | 6        | 42.9%      | 5        | 16.7%      |
| ベトナム語                      | 9        | 8.6%     | 4        | 6.6%  | 1        | 7.1%       | 4        | 13.3%      |
| インドネシア語                    | 6        | 5.7%     | 4        | 6.6%  | 0        | 0.0%       | 2        | 6.7%       |
| ネパール語                      | 5        | 4.8%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%       | 3        | 10.0%      |
| ミャンマー語                     | 4        | 3.8%     | 2        | 3.3%  | 1        | 7.1%       | 1        | 3.3%       |
| タイ語                        | 4        | 3.8%     | 4        | 6.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| ベンガル語(バングラデシュ)             | 3        | 2.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%       | 1        | 3.3%       |
| タガログ語                      | 3        | 2.9%     | 3        | 4.9%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| フィリピン語                     | 3        | 2.9%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%       | 1        | 3.3%       |
| シンハラ語(スリランカ)               | 2        | 1.9%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 1        | 3.3%       |
| スペイン語(ペルー・メキシコ<br>など)      | 2        | 1.9%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%       | 0        | 0.0%       |
| ポルトガル語(ブラジル)               | 2        | 1.9%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%       | 0        | 0.0%       |
| 韓国語・朝鮮語                    | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| ノンバーバル言語<br>(表情・ボディランゲージ等) | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| タミル語(スリランカ)                | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| ウルドゥー語(パキスタン)              | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| ロシア語                       | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%       | 0        | 0.0%       |
| クメール語                      | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%       | 0        | 0.0%       |
| ラオス語                       | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%       | 0        | 0.0%       |

次は、教室での使用言語を日本語だけに制限することへの賛否【問28】に関する回答である。

**表 9 【問 28：使用言語を日本語だけに制限することへの賛否】**

「28. あなたは「教室で使用する言語を日本語だけに制限するべきである」という意見にどれくらい賛成しますか。4 段階( [大いに反対:1]-[大いに賛成:4] )から選んでください。」

| 選択肢          | 全体 件数 | 全体 %  | 甲 件数 | 乙 件数 | 丙 件数 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|
| 1<br>(大いに反対) | 60    | 57.1% | 15   | 9    | 6    |
| 2            | 88    | 83.8% | 27   | 5    | 12   |
| 3            | 52    | 49.5% | 16   | 0    | 10   |
| 4<br>(大いに賛成) | 10    | 9.5%  | 3    | 0    | 2    |
| 平均           | 2.06  |       | 2.11 | 1.36 | 2.27 |

次に、通訳、翻訳の方法【問30】、機械翻訳に限られる言語【問32】に関する結果を挙げる。

**表 10 【問 30：通訳・翻訳の方法】(複数回答)**

| 選択肢                                 | 全体 件数 | 全体 %  | 甲 件数 | 甲 %   | 乙 件数 | 乙 %    | 丙 件数 | 丙 %   |
|-------------------------------------|-------|-------|------|-------|------|--------|------|-------|
| 通訳アプリや通訳の機器を用いる                     | 84    | 80.0% | 51   | 83.6% | 14   | 100.0% | 19   | 63.3% |
| 学習者同士で通訳・翻訳してもらう                    | 66    | 62.9% | 39   | 63.9% | 8    | 57.1%  | 19   | 63.3% |
| 支援者・指導者(ボランティア、日本語教師、運営者など)が通訳・翻訳する | 62    | 58.1% | 33   | 54.1% | 10   | 71.4%  | 19   | 63.3% |
| 教室が雇用している専門の通訳者・翻訳者(外国人スタッフなど)が対応する | 16    | 15.2% | 1    | 1.6%  | 2    | 14.3%  | 13   | 43.3% |
| 学習者の家族・友達に来てもらって通訳・翻訳してもらう          | 8     | 7.6%  | 4    | 6.6%  | 3    | 21.4%  | 1    | 3.3%  |
| 公的な通訳者・翻訳者を外部から派遣してもらう              | 7     | 6.7%  | 1    | 1.6%  | 6    | 42.9%  | 0    | 0.0%  |

表 11 【問 32：機械翻訳に限られる言語】（複数回答）

| 選択肢                                                             | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|-----------------------------------------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 困っていない                                                          | 47       | 44.8%    | 32       | 52.5% | 1        | 7.1%  | 14       | 46.7% |
| ベトナム語                                                           | 29       | 27.6%    | 16       | 26.2% | 9        | 64.3% | 4        | 13.3% |
| ネパール語                                                           | 22       | 21.0%    | 7        | 11.5% | 10       | 71.4% | 5        | 16.7% |
| ミャンマー語                                                          | 20       | 19.0%    | 9        | 14.8% | 2        | 14.3% | 9        | 30.0% |
| インドネシア語                                                         | 18       | 17.1%    | 14       | 23.0% | 3        | 21.4% | 1        | 3.3%  |
| ベンガル語(バングラデシュ)                                                  | 16       | 15.2%    | 5        | 8.2%  | 1        | 7.1%  | 10       | 33.3% |
| 中国語                                                             | 14       | 13.3%    | 6        | 9.8%  | 4        | 28.6% | 4        | 13.3% |
| タガログ語                                                           | 14       | 13.3%    | 6        | 9.8%  | 7        | 50.0% | 1        | 3.3%  |
| シンハラ語(スリランカ)                                                    | 14       | 13.3%    | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%  | 12       | 40.0% |
| フィリピン語                                                          | 13       | 12.4%    | 5        | 8.2%  | 6        | 42.9% | 2        | 6.7%  |
| ウルドゥー語(パキスタン)                                                   | 10       | 9.5%     | 4        | 6.6%  | 2        | 14.3% | 4        | 13.3% |
| タイ語                                                             | 8        | 7.6%     | 6        | 9.8%  | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |
| ウクライナ語                                                          | 7        | 6.7%     | 3        | 4.9%  | 3        | 21.4% | 1        | 3.3%  |
| スペイン語(ペルー・メキシコ<br>など)                                           | 6        | 5.7%     | 1        | 1.6%  | 3        | 21.4% | 2        | 6.7%  |
| タミル語(スリランカ)                                                     | 5        | 4.8%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%  | 3        | 10.0% |
| 英語                                                              | 5        | 4.8%     | 3        | 4.9%  | 2        | 14.3% | 0        | 0.0%  |
| ポルトガル語(ブラジル)                                                    | 4        | 3.8%     | 0        | 0.0%  | 3        | 21.4% | 1        | 3.3%  |
| 韓国語・朝鮮語                                                         | 4        | 3.8%     | 2        | 3.3%  | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |
| マレー語(マレーシア)                                                     | 3        | 2.9%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |
| ロシア語                                                            | 3        | 2.9%     | 1        | 1.6%  | 1        | 7.1%  | 1        | 3.3%  |
| ダリー語(ダリ語とも)                                                     | 2        | 1.0%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 不明(アフガニスタン)                                                     | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| ウズベク語                                                           | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%  |
| カンボジア語(クメール語)                                                   | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| クメール語                                                           | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| ビサヤ語                                                            | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%  | 0        | 0.0%  |
| アラビア語                                                           | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]基本<br>的に全部                                           | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]英語<br>中国語以外は全て                                       | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]困っ<br>ていないレベルではないが、基<br>本的にはやさしい日本語中心<br>のやりとりをしている。 | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%  |

|                                           |   |      |   |      |   |      |   |      |
|-------------------------------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 【その他（自由記述）】通じないことが前提なので、それで困っているという感覚はない。 | 1 | 1.0% | 1 | 1.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
|-------------------------------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|

## 2. 教材の数、バリエーションはもう少しほしい

【問 33】【問 34】【問 35】【問 36】【問 37】(表 12 から表 18)より、教材使用の現状と意識を見ると、教室が持つ教材数【問 33】は 21 冊以上という答えが 58 件(55%)と多いが、満足度(冊数【問 34】、バリエーション【問 37】)の平均はいずれも 4 段階中 3 未満(冊数で 2.86、バリエーションで 2.79)で、量的にも質的にも「もう少し欲しい」という結果となった。成人学習者向け教材【問 35】としては、日本語の初級総合教科書(78 件、74%)と日本語能力試験など、検定対策問題集(58 件、55%)が広く使われている。16 歳以下の子ども向け教材【問 36】としては、ばらつきが大きかったが、絵本(27 件、25.7%)、アプリを含むゲーム(例:カードゲーム・ボードゲームなど)(24 件、22.9%)、教科のドリル(国語・算数・計算ドリル・漢字ドリルなど)(22 件、21.0%)など、絵による支援、遊びの要素を重視した支援や、学校の宿題支援が主であることが見て取れた。

表 12 【問 33：教材冊数】

「33. あなたの日本語教室では、支援者(ボランティア・日本語教師など)が自由に使える教材(教科書・問題集など)が何冊くらいありますか。」

| 選択肢         | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 乙 件<br>数 | 丙 件<br>数 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 21 冊以上      | 58       | 55.2%    | 30       | 6        | 22       |
| 1 冊から 5 冊   | 20       | 19.0%    | 17       | 1        | 2        |
| 6 冊から 15 冊  | 13       | 12.4%    | 4        | 4        | 5        |
| 16 冊から 20 冊 | 7        | 6.7%     | 4        | 3        | 0        |
| ない          | 5        | 4.8%     | 4        | 0        | 1        |
| 分からない       | 2        | 1.9%     | 2        | 0        | 0        |

表 13 【問 34：教材冊数への満足度】

「34. あなたの日本語教室の持つ、教材の数(教科書・問題集など)に満足していますか。4 段階( [非常に不満:1] - [非常に満足:4] )から選んでください。」

| 選択肢          | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 乙 件<br>数 | 丙 件<br>数 |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1<br>(非常に不満) | 14       | 13.3%    | 6        | 0        | 1        |
| 2            | 54       | 51.4%    | 11       | 8        | 8        |
| 3            | 90       | 85.7%    | 33       | 4        | 8        |
| 4<br>(非常に満足) | 52       | 49.5%    | 11       | 2        | 13       |
| 平均           | 2.86     |          | 2.80     | 2.57     | 3.10     |

**表 14 【問 37：教材バリエーションへの満足度】**

「37. あなたの日本語教室の持つ、教材のバリエーションに満足していますか。4 段階( [非常に不満:1]-[非常に満足:4] )から選んでください。

| 選択肢          | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 乙 件<br>数 | 丙 件<br>数 |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1<br>(非常に不満) | 12       | 11.4%    | 5        | 1        | 0        |
| 2            | 64       | 61.0%    | 16       | 8        | 8        |
| 3            | 90       | 85.7%    | 34       | 3        | 8        |
| 4<br>(非常に満足) | 44       | 41.9%    | 6        | 2        | 14       |
| 平均           | 2.79     |          | 2.67     | 2.43     | 3.20     |

**表 15 【問 35：16 歳以上の学習者向けに使用している教材】（複数回答）**

35. あなたの日本語教室では、16 歳以上の学習者向けにどんな日本語教材を用いていますか。  
当てはまるものをすべて選んでください。（※紙版でも電子版でも良い）

| 選択肢                                      | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %     |
|------------------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|---------|
| 初級の総合教科書(例:『みんなの日本語』『できる日本語』『まるごと』など)    | 79       | 75.2%    | 42       | 68.9% | 7        | 50.0% | 30       | 100.0 % |
| 日本語能力試験など検定対策の問題集                        | 58       | 55.2%    | 34       | 55.7% | 1        | 7.1%  | 23       | 76.7%   |
| ゲーム(例:カードゲーム・ボードゲームなど)(※アプリを含む)          | 25       | 23.8%    | 17       | 27.9% | 3        | 21.4% | 5        | 16.7%   |
| 目的別の日本語教科書(例:介護の日本語・ビジネス日本語・アカデミック日本語など) | 19       | 18.1%    | 10       | 16.4% | 1        | 7.1%  | 8        | 26.7%   |
| 教科のドリル(国語・算数・計算ドリル・漢字ドリルなど)              | 12       | 11.4%    | 6        | 9.8%  | 2        | 14.3% | 4        | 13.3%   |
| 対訳辞書(例:日中辞書・英日辞書など)(※アプリを含む)             | 10       | 9.5%     | 4        | 6.6%  | 2        | 14.3% | 4        | 13.3%   |
| 絵本                                       | 9        | 8.6%     | 6        | 9.8%  | 2        | 14.3% | 1        | 3.3%    |
| 国語科の教科書(『こくご 2』『中学国語 1』など)               | 6        | 5.7%     | 3        | 4.9%  | 2        | 14.3% | 1        | 3.3%    |
| 国語科以外の学校の教科書(『数学 1』『生活科 2』など)            | 6        | 5.7%     | 2        | 3.3%  | 2        | 14.3% | 2        | 6.7%    |
| 自作教材                                     | 5        | 4.8%     | 5        | 8.2%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%    |
| 教材は使用しない                                 | 4        | 3.8%     | 3        | 4.9%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%    |

|                                                  |    |       |   |      |   |       |   |      |
|--------------------------------------------------|----|-------|---|------|---|-------|---|------|
| 国語辞典(※アプリを含む)                                    | 4  | 3.8%  | 2 | 3.3% | 1 | 7.1%  | 1 | 3.3% |
| NHK やさしい日本語ニュース (NEWS WEB EASY)                  | 2  | 2.0%  | 2 | 3.3% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]新聞                                    | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]学習者に合わせてほとんどすべてのテキストを使用(いろいろ、GENKI、他) | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]会話を中心に学ぶことを目的とした教材                    | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]翻訳アプリ                                 | 1  | 1.0%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  | 1 | 3.3% |
| [その他(自由記述)]チラシ、雑誌、地図、実物や写真、絵等                    | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]動画、PC                                 | 1  | 1.0%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  | 1 | 3.3% |
| [その他(自由記述)]スマホ、パソコン、外国人が受け取った文書など、会話             | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]会話重視の教材(いろいろなど)                       | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]つながるひろがる日本での暮らし                       | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| [その他(自由記述)]日本語文型辞典、日本語文法ハンドブック                   | 1  | 1.0%  | 1 | 1.6% | 0 | 0.0%  | 0 | 0.0% |
| 紙芝居                                              | 1  | 1.0%  | 0 | 0.0% | 0 | 0.0%  | 1 | 3.3% |
| 該当する学習者(16歳以上)がいない                               | 12 | 11.4% | 5 | 8.2% | 7 | 50.0% | 0 | 0.0% |

**表 16 【問 36：子ども（16 歳未満）向けに使用している教材】（複数回答）**

36. あなたの日本語教室では、子ども（16 歳未満）の学習者向けにどんな日本語教材を用いていますか。当てはまるものをすべて選んでください。（※紙版でも電子版でも良い）

| 選択肢                                    | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|----------------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 絵本                                     | 27       | 25.7%    | 16       | 26.2% | 8        | 57.1% | 3        | 10.0% |
| ゲーム(例:カードゲーム・ボードゲームなど)(※アプリを含む)        | 24       | 22.9%    | 16       | 26.2% | 7        | 50.0% | 1        | 3.3%  |
| 教科のドリル(国語・算数・計算ドリル・漢字ドリルなど)            | 22       | 21.0%    | 14       | 23.0% | 7        | 50.0% | 1        | 3.3%  |
| 国語科の教科書(『こくご 2』『中学国語 1』など)             | 17       | 16.2%    | 8        | 13.1% | 8        | 57.1% | 1        | 3.3%  |
| 初級の総合教科書(例:『みんなの日本語』『できる日本語』『まるごと』など)  | 14       | 13.3%    | 7        | 11.5% | 6        | 42.9% | 1        | 3.3%  |
| 国語科以外の学校の教科書(『数学 1』『生活科 2』など)          | 13       | 12.4%    | 7        | 11.5% | 5        | 35.7% | 1        | 3.3%  |
| 紙芝居                                    | 8        | 7.6%     | 3        | 4.9%  | 3        | 21.4% | 2        | 6.7%  |
| 国語辞典(※アプリを含む)                          | 7        | 6.7%     | 1        | 1.6%  | 6        | 42.9% | 0        | 0.0%  |
| 日本語能力試験など検定対策の問題集                      | 5        | 4.8%     | 5        | 8.2%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 対訳辞書(例:日中辞書・英日辞書など)(※アプリを含む)           | 4        | 3.8%     | 1        | 1.6%  | 3        | 21.4% | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]各自がやりたいものを持参(例:宿題、参考書など)    | 3        | 2.90%    | 3        | 4.9%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]自作教材                        | 2        | 1.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]教材は使用しない                    | 2        | 1.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]教室に子どもは来るが担当してないので詳しくわからない  | 2        | 1.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]みえこさんのにほんご、たのしいがっこう、日本語学級など | 2        | 1.9%     | 2        | 3.3%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]多読ブック                       | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他(自由記述)]多読の本、漢字教材                   | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 1        | 7.1%  | 0        | 0.0%  |

|                                                    |    |       |    |       |   |       |    |       |
|----------------------------------------------------|----|-------|----|-------|---|-------|----|-------|
| [その他（自由記述）]たのしいがっこう、あのね、WEB 上のプリント教材               | 1  | 1.0%  | 0  | 0.0%  | 1 | 7.1%  | 0  | 0.0%  |
| [その他（自由記述）]自作の練習問題、学習用絵カードや文字カード、動画サイト             | 1  | 1.0%  | 0  | 0.0%  | 1 | 7.1%  | 0  | 0.0%  |
| [その他（自由記述）]手作りのひらがなカードや果物や乗り物などの絵のカード、公民館の図書室の絵本など | 1  | 1.0%  | 1  | 1.6%  | 0 | 0.0%  | 0  | 0.0%  |
| [その他（自由記述）]16 歳以上と同様の教材を使用                         | 1  | 1.0%  | 1  | 1.6%  | 0 | 0.0%  | 0  | 0.0%  |
| 該当する学習者がいない                                        | 66 | 62.9% | 35 | 57.4% | 4 | 28.6% | 27 | 90.0% |

次に、教材入手の方法に関する回答を挙げる。

**表 17 【問 39:教材入手の方法】（複数回答）**

39. あなたが日本語教室のために新しい教材を入手する時、どのような手段を取りますか。当てはまるものをすべて選んでください。

| 【問 39: 教材入手方法                  | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|--------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 公費(例:教室運営費など)で購入する。            | 80       | 76.2%    | 45       | 73.8% | 10       | 71.4% | 25       | 83.3% |
| 支援者(ボランティア・日本語教師)それぞれが私費で購入する。 | 35       | 33.3%    | 21       | 34.4% | 7        | 50.0% | 7        | 23.3% |
| 学習者に購入してもらう。                   | 24       | 22.9%    | 14       | 23.0% | 2        | 14.3% | 8        | 26.7% |
| 図書館で借りる。                       | 16       | 15.2%    | 10       | 16.4% | 1        | 7.1%  | 5        | 16.7% |
| 教室の代表者(または主任・リーダーなど)が私費で購入する。  | 16       | 15.2%    | 13       | 21.3% | 1        | 7.1%  | 2        | 6.7%  |
| [その他（自由記述）]方法がない（予算措置をしてほしい）。  | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| [その他（自由記述）]私費(面倒だから)。          | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |

|                                              |   |      |   |      |   |      |   |      |
|----------------------------------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 〔その他（自由記述）〕公民館、公的団体（平和文化センターなど）から借用。         | 1 | 1.0% | 1 | 1.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| 〔その他（自由記述）〕ボランティア教室を始めた人がグループ創設時に寄付したお金から購入。 | 1 | 1.0% | 1 | 1.6% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

**表 18 【問 40:教材選定の方法】（複数回答）**

40. あなたが新しい教材を探したいとき、どういう手段を取りますか。当てはまるものをすべて選んでください。

| 選択肢                                                           | 全体<br>件数 | 全<br>体 % | 甲 件<br>数 | 甲 %   | 乙 件<br>数 | 乙 %   | 丙 件<br>数 | 丙 %   |
|---------------------------------------------------------------|----------|----------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| ネットの情報から中身を予想する。                                              | 72       | 68.6%    | 38       | 62.3% | 13       | 92.9% | 21       | 70.0% |
| 支援者(ボランティア・日本語教師)同士で情報交換をする。                                  | 62       | 59.0%    | 38       | 62.3% | 10       | 71.4% | 14       | 46.7% |
| 本屋で中身を見てみる。                                                   | 53       | 50.5%    | 24       | 39.3% | 9        | 64.3% | 20       | 66.7% |
| 図書館で中身を見てみる。                                                  | 11       | 10.5%    | 5        | 8.2%  | 1        | 7.1%  | 5        | 16.7% |
| 書店に問い合わせる。                                                    | 2        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  | 2        | 6.6%  |
| 〔その他（自由記述）〕ネットで公開された教材を探す。                                    | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕自分で購入してから検討する。                                     | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕日本語コーディネーター（平和文化センター）の助言。                          | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕非常勤講師には教材選びの権利はないので、学校にある教科書から選ぶ以外ない。              | 1        | 1.0%     | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  | 1        | 3.3%  |
| 〔その他（自由記述）〕ひろしま国際センターで探す。                                     | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |
| 〔その他（自由記述）〕地域に教材を並べている本屋がないので、教材選びは非常に難しい。教材カタログのような資料があるといい。 | 1        | 1.0%     | 1        | 1.6%  | 0        | 0.0%  | 0        | 0.0%  |

|                          |   |      |   |      |   |      |   |      |
|--------------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 【その他（自由記述）】出版社からの図書一覧など。 | 1 | 1.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 1 | 3.3% |
|--------------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|

ここからは、上記の表 8 から表 18 の分析で分かったことを、教室種別に分けて報告する。

## 4-2. 甲「地域教室」(N=61) の傾向

### 1. 言語対応はできている

機械翻訳に頼らざるを得ない言語を尋ねた問い【問 32】(表 11)に対して、「困っていない」と答えた割合が 46 件(50.8%)と最も高く、ある程度の言語対応力があることが伺える。この割合に関しては、この問いに対する回答の「その他」に記載された自由記述にあった、「通じないことが前提なので、それで困っているという感覚はない。」という回答があったことに着目したい。この回答から、約 5 割の「困っていない」という回答は、言語資源が豊富でコミュニケーションにまったく支障がないという日本語教室の言語対応の状況を示唆しているのではなく、地域の教室では、最低限のコミュニケーションを行うことができるという目標を設定し、そのレベルの目標を達成できているという意味で、「困っていない」という回答ではないかと考えられる。

なお、言語対応に困難に感じている言語としては、ベトナム語(26%)、インドネシア語(23%)、ミャンマー語(14.8%)、ネパール語(11.5%)への対応に課題を感じる声があった。

### 2. 教材は公費収入もあるが私費購入も多い

教材の満足度は、冊数【問 34】(表 13)が 2.80/4 点満点・バリエーション【問 37】(表 14)が 2.67/4 点満点で、乙「学校(小中高校)」グループに次いで低かった。教室の教材数は「21 冊以上」が約半数(30 件、49.1%)であった。教材の入手方法は【問 39】(表 17)、公費購入(40 件、65.6%)に加えて、代表者の私費購入が 13 件(21.3%)、指導者、支援者の私費購入が 21 件(34.4%)と私費で用意していることも多く、他グループと比較して、個人の負担に依存した運営がされている実態が垣間見える。

子ども(16 歳未満)向けに使用している教材【問 36】(表 16)では、該当する学習者がいないと答えた回答が 35 件(57.4%)であり、それ以外の 4 割(42.6%)の指導者、支援者は、子ども(16 歳未満)向けの日本語指導も行っていることが分かる。絵本、ゲーム、紙芝居など、子どもが喜びそうな教材や学校の宿題(ドリル・教科書)を用いているほかには、手作りの教材を準備したり、オンラインで入手できる教材を用いたりしているという回答も見られた。大人向けの初級の総合教科書(例:『みんなの日本語』『できる日本語』『まるごと』など)を用いているという回答が 7 件(11.5%)あった一方で、子ども向けの日本語学習教材(例:『日本語学級』『みえこさんのほんご』『たのしいがっこう』など)を地域教室で使用している指導者、支援者は非常に限られている(2件)ことが分かった。

### 4-3. 乙「学校（小中高校）」（N=14）の傾向

#### 1. 多言語対応に苦慮

このグループでは、言語対応の負担が際立つ。教室での使用言語【問 27】（表 8）は、英語使用率が 92.9%と最も高かった。機械翻訳に限られる言語【問 32】（表 11）についての回答では、「困っていない」という回答はわずか 1 件（7.1%）で、これは 3 グループ中で最低であった。ここから、英語でコミュニケーションを行いつつも、児童生徒、保護者の受け入れ数が増えるにつれて多言語化している現状に対応が追い付いていない様子が分かる。ネパール語（71.4%）、ベトナム語（64.3%）、タガログ語（50%）（フィリピン語 42.9%）など多くの言語で機械翻訳に頼らざるを得ない状況が示されている。

言語的支援【問 30】（表 10）としては、公的通訳者の派遣を利用しているという回答が 6 件（42.9%）あった。以上の結果から、保護者対応での多国籍ぶりが伺え、通訳が不在の状況では、翻訳が正しいかどうか、判断できないまま、機械翻訳に頼って情報伝達している可能性があり、子どもが学校生活を行う上で必要な情報の伝達であっても困難となっている様子が予想される。とくに、進路指導や保護者懇談などキャリアに関する情報、安全や健康に関わる情報においては、正しく十分な意思疎通が行われる必要があり、現在では、その点で課題があることが予想される。

#### 2. 日本語も家庭の言語も大事にしたいと考えている

このグループの特徴としては、日本語のみに制限することに賛成するかどうかを尋ねた問い【問 28】（表 9）に対する賛成度を最大 4 点とした場合の平均が 1.36 点と突出して低く（全体 2.06 点、甲「地域教室」2.11 点、乙「日本語学校・専門学校・企業」2.27 点）、教室内で日本語だけに限定することに反対するという判断が最も強かったことである。

これに関しては、文部科学省（2025）が子どもを日本語力だけで評価するのではなく、「日本語も母語もあわせて、子どもが持っているすべての言語レパートリーを使って、最大限にできることを評価」という方針を打ち出しており、それが現場にも浸透して行っている様子が見て取れる。

#### 3. 教材の数、バリエーションは不十分、指導時間が足りない

このグループのもう一つの特徴としては、教材面でも他のグループと比較して満足度が最も低く（冊数【問 34】2.57/4 点満点、バリエーション【問 37】2.43/4 点満点）、抱えている課題【問 25】でも「教材・教具が不足している」（5 件、35.7%）と「日本語指導にかけられる時間が不足している」（5 件、35.7%）という回答の割合が高かった（表 7、表 13、表 14）。子どもの指導においては、多様な言語背景（日本語習熟度、日本語以外で利用できる言語とその習熟度、思考力、教科の知識、文化、学習習慣など）に合わせた指導方法が必要であるが、現在の教材数、種類ではそれに応えきれない様子が伺われた。また、現場では指導に当てられる時間が不足していることも明らかになった。

#### 4-4. 丙「日本語学校・専門学校・企業」(N=30)の傾向

##### 1. 通訳・翻訳体制がある程度整っている

このグループが際立っているのは、通訳・翻訳体制が整っていることである。「教室が雇用している専門通訳者・翻訳者が対応する」が13件(43.3%)となっており、他グループの回答(甲「地域教室」1.6%、乙「学校(小中高校)」14.3%)を大きく上回る【問30】(表10)。これは、多言語対応に関する、一定の組織的体制が整っていることを示唆する。一方、シンハラ語(12件、40%)、ベンガル語(10件、33%)、ミャンマー語(9件、30%)では機械翻訳への依存が高く(【問32: 機械翻訳に限られる言語】、表11)、昨今、増えている南アジア・東南アジア系の学習者への対応が追いついていない様子が分かる。「その他」に記載された自由記述としては、「困っていないレベルではないが、基本的には、やさしい日本語を中心にやりとりをしている。」という回答(1件)があった。日本語の表現や語彙などで調整を行いながら、情報伝達を行っている様子が想像される。

##### 2. 教材へのアクセスは比較的容易

教材への満足度も最も高かった(冊数【問34】3.10/4点満点、バリエーション【問37】3.20/4点満点)。成人学習者向け教材としては、『みんなの日本語』『できる日本語』『まるごと』などの初級総合教科書(30件、100%)や日本語能力試験などの検定対策問題集(23件、76.7%)の使用率が高く、それに基づいて、卒業後の進路を見据えた体系的なカリキュラムが組まれている様子が垣間見える。抱えている課題【問25】としては、回答には活動資金の不足を訴える教室はなく、財政的には比較的安定している状況であることが分かった(表7、表13、表14)。

#### 第5節 まとめと展望

全体の結果と教室種別の回答の傾向を比較すると、各教室の課題の状況は、下表のようにまとめられる。

表19 全体と教室種別ごとの課題

| 課題              | 全体    | 甲「地域教室」        | 乙「学校(小中高校)」 | 丙「日本語学校・専門学校・企業」    |
|-----------------|-------|----------------|-------------|---------------------|
| 指導者・支援者不足       | 深刻    | 深刻<br>後継者問題あり  | 深刻          | 比較的軽微               |
| 孤立・情報不足         | 課題あり  | 中程度            | 特に深刻        | 比較的軽微               |
| 多言語対応           | 機器に頼る | 比較的安定          | 最も困難        | 一定の体制あり<br>(通訳雇用など) |
| 教材の数<br>バリエーション | やや低め  | やや低め<br>私費購入あり | 満足度が低い      | ほぼ満足                |
| 資金不足            | 課題あり  | 課題あり           | 目立たない       | 比較的安定               |

以上の結果から、本調査を通して見えてきた重点的な課題とそれに向けた提言をまとめる。まず、見えてきた希望としては、全体に共通して、広島県内の日本語教室に関わっている指導者、支援者の

大半が今後も活動を継続したいという意思を持っていることが分かったことである。それを活かすためには、現在、広島県内の日本語教室を文字通り支えている、それぞれの指導者、支援者が抱えている課題に耳を傾け、指導者、支援者が孤立し、疲弊し、ドロップアウトしてしまう可能性を減らす公的なサポート体制が必要である。

すべてのグループに共通する課題は、指導者・支援者が不足していることであることが分かった。これを改善するためには、乙「学校(小中高校)」グループでは、人事面での考慮が提案できる。日本語指導が必要な児童生徒への指導を行うことができる人材の経験や専門性を十分に継続して生かせるキャリアパスの設計、専門性の確かな継承が必要がある。丙「日本語学校・専門学校・企業」グループでは、日本語教育人材の養成と安定したポストの準備が急務である。甲「地域教室」グループでは、日本語指導、支援者に関心を持った人がエントリーしやすくすること、経験の浅い参入者であっても安心して指導・支援できるように、経験の豊富な指導者、支援者からの情報共有の機会を得ることや日本語教育の専門家のサポートを受けられる体制を用意することが必要である。例えば、日本語教室と支援者・指導者、あるいは学習者と支援者・指導者をマッチングができる窓口が充実すると良い。また、日本語教室の運営をサポートし、助言をできる日本語教育の専門家や機関との連携が個人任せにせずに用意されていることが望ましい。

日本語教室では、学習者のニーズに合わせ、より良い将来につなげるための日本語指導が行われることがまずは必要である。今回のアンケート調査を通して、日本語教室は「日本語」を教える場所という役割を超えて、情報提供・情報共有、生活のサポートなどの支援を行う場所であるとともに、居場所であり、日常の悩みや困りごとなどの荷物をいったん下せる場所、地域と人をつなげる場所という、目に見えない役割を持っていることが分かった。日本語教室は「日本語」という日本での今の生活、日本での将来に関わることばの能力を高めるという役割を大きく超えた存在である。

情報提供・共有の機能とは、すなわち、ゴミ、防災、イベント情報など日本での生活情報を伝達したり、教室に通う外国人の日々の生活や家族、職場などの状況をやわらかく把握したりする機能である。もう一つの居場所としての機能とは、ここに来ると迎え入れられる、誰かが待っていてくれるという、地域コミュニティとのつながりを持たせる機能である。広島県の中でオンライン日本語指導に手立てが限られる地域においては、日本語教室とは別のシステムによって、これらの機能を拡充することが求められる。

今回の調査の結果からは、指導者・支援者側は日本人が大半で、年齢層が高いという現状も見られた。日本語支援・指導者の経験の長い人、人生経験の豊富な世代が支援・指導を安心して継続してもらえることに加えて、若い世代の参加を促進することで、多様な世代で日本語指導、日本語支援を行っていきける環境を整えていくことが望まれる。それに加えて、一定の日本語能力を持つ外国籍、外国出身の指導者、支援者の参加を促すことで、多言語、多文化に対応できる環境を用意することを提案したい。

外国籍、外国出身の指導者、支援者の日本語教室運営への参加に関して、乙「学校(小中高校)」に関する全国の先行事例として、例えば、愛知県西尾市では、入国して間もない外国人児童生徒向けに開かれる日本語集中初期指導教室の指導の大半が外国籍、外国出身によって担われている。この取り組みでは、外国人児童生徒と指導者で共通する母語を持ち、その言語で補助できるという利点があり、来日して間もない子どもの抱える不安を取り除くことに寄与している。また、岐阜県教育委員

会、静岡県教育委員会、愛知県教育委員会、浜松市教育委員会では、「外国語堪能教員特別選考」を行い、日本語以外の言語で授業ができる教員を採用している実績を持つ(中島他 2021)。

外国籍、外国出身の指導者、支援者に日本語教室に関わってもらうことは、外国につながる若者にとって、「自分にもできるかもしれない」「自分もあれをやってみたい」という将来の目標(ロールモデル)となる可能性も持つ。

今回の調査を通して、教材へのアクセスが難しい教室があることも分かった。これについて、すぐにできる対策としては、日本語教育の書籍カタログ(凡人社)や専門書店各社のパンフレットなどを広島県内の国際交流協会や図書館の情報コーナーなどに設置することが提案できる。日本語教育の書籍を手にとってゆっくり選ぶ機会が限られている指導者・支援者が少なからずいる。そこで、本学(県立広島大学)は広島県の広域(広島市・庄原市・三原市)にキャンパスを持ち、それぞれに広島県民が利用できる図書館があるという利点を生かし、3つの図書館に日本語学習図書のコーナーを作り(図1)、これまで蔵書になかった子どもの日本語教育に関する書籍(表20)も新たに配架した。



図1 県立広島大学図書館の  
日本語学習図書コーナー  
(写真は庄原キャンパス図書館)

表20 県立広島大学図書館に新たに開架した「子どもの日本語教育」関連書籍 (3  
キャンパス共通)

| No. | 書籍名                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------|
| 1   | おひさま はじめのいっぽ 子どものための日本語                                      |
| 2   | 季節と学校の行事 (ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば (英語・中国語・ポルトガル語・フィリピン語))       |
| 3   | 算数・理科・家庭科・道徳ほか (ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば (英語・中国語・ポルトガル語・フィリピン語)) |
| 4   | 国語・社会・体育・音楽・図工 (ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば (英語・中国語・ポルトガル語・フィリピン語)) |
| 5   | 学校の日 (ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば (英語・中国語・ポルトガル語・フィリピン語))           |
| 6   | あいさつやこまったとき (ひと目でわかる!教室で使うみんなのことば (英語・中国語・ポルトガル語・フィリピン語))    |
| 7   | 外国人・特別支援児童生徒を教えるためのリライト教材 改訂3版増補版                            |
| 8   | 外国人生徒のための教科につなげる日本語 基礎編                                      |
| 9   | 外国人生徒のための教科につなげる日本語 応用編                                      |
| 10  | JSL 中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル 英語版, オンデマンド版                  |
| 11  | JSL 中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル 中国語版, オンデマンド版                 |

|    |                                                   |
|----|---------------------------------------------------|
| 12 | JSL 中学高校生のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル ポルトガル語版, オンデマンド版   |
| 13 | 中学生のにほんご 外国につながるのある生徒のための日本語 Step1 学校生活編          |
| 14 | 中学生のにほんご 外国につながるのある生徒のための日本語 Step2 社会生活編          |
| 15 | 中学生のにほんご 外国につながるのある生徒のための日本語 Step3 教科編            |
| 16 | 音・形・場面で身につく!! にほんごワーク 読み書き・ソーシャルスキル・自分のルーツをたのしく学ぶ |
| 17 | 進学を目指す人のための教科につなげる学習語彙 6000 語 日中対訳                |
| 18 | こどものにほんご 1 [テキスト] (外国人の子どものための日本語)                |
| 19 | こどものにほんご 2 [テキスト] (外国人の子どものための日本語)                |
| 20 | にほんご 多読ボックス Level 0 から 5                          |
| 21 | にほんご よむよむ文庫 レベル 0 から 4                            |

本調査による日本語教室の実態把握を通して、広島県全体の日本語教室支援において重点的に取り組むべき課題が浮かび上がった。各グループへの提案を改めてまとめると、甲「地域教室」グループでは、後継者育成と安定した資金確保の仕組みづくりをすること、乙「学校(小中高校)」グループでは、情報ネットワークづくり、専門支援のアウトリーチ、教材へのアクセスをしやすくすること、指導のノウハウへの蓄積を組織的に行う仕掛けづくりをおこなうこと、丙「日本語学校・専門学校・企業」グループへは、若年層の参入を促すことで日本語教育分野の継続性を担保すること、となる。広島県において、日本語指導、日本語支援を担ってきた日本語教室を中心として人と地域がつながっていく環境を整えていくためには、それに関わる個人の熱意を摩耗させない支援が求められる。

#### 付記

アンケート調査に回答して下さった日本語教室に関わる皆様、アンケートへの協力を呼び掛けて下さった皆様に心より感謝いたします。また、同時期に行われた日本語教室のアンケート調査の計画を事前に共有して下さったひろしま NPO センターの関係各位にもお礼申し上げます。

この調査は、令和7年度県立広島大学重点研究事業 領域横断型研究支援(番号:1、研究課題:「広島県における外国人市民との連携・協働による地域創生に向けた環境整備に関する考察」、代表:植村広美)によるものです。

## 引用文献

中島智子・権瞳・呉永鎬・榎井縁(2021)『公立学校の外国籍教員—教員の生(ライヴズ)、「法理」という壁』明石書店

ひろしま国際センター「広島県内の国際交流団体一覧」

<https://hiroshima-ic.or.jp/organization-area/hiroshima/>

文化審議会国語分科会(2019)『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版』(平成31年3月4日)

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo\\_70/pdf/r1414272\\_04.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/kokugo/kokugo_70/pdf/r1414272_04.pdf)

文部科学省(2025)「文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし(略称「ことばの力のものさし」)」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/1345413\\_00002.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413_00002.html)